

令和5年度
第3回西脇市総合教育会議
議事録

令和6年1月29日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和6年1月29日（月）午後3時～

2 開催場所

西脇市役所 大会議室

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	遠藤一博
教育委員	岸本みのり	教育委員	柴垣美紀
教育委員	藤尾寛	教育委員	和多眞乗

(2) 事務局

市長	公室長	早崎	育子
政策推進課	政策推進担当	澤田	康生
教育管理部	部長	高橋	芳文
教育創造部	部長	足立	英則
教育委員会	参事	竹内	誠
学習環境規模適正化推進担当	次長	鈴木	成幸
生涯学習課	課長	長谷川	広幸
学校教育課	課長	衣川	正昭
学校教育課主幹兼教育研究室長		宮下	晋一

4 傍聴者

7人

5 会議の概要

- ・ 市長あいさつ
- ・ 協議・調整事項
 - (1) 西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画について
- ・ その他

○事務局

本日は大変お忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第3回西脇市総合教育会議を開会いたします。本日事務局を務めさせていただきます教育管理部長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして片山市長から御挨拶をいただきます。市長よろしくお願いいたします。

◎市長

総合教育会議の開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。平素より、教育委員の皆様方には、本市の教育行政の推進に格別の御支援と御尽力を賜り心からお礼申し上げます。

一昨日、令和5年度のPTCA活動支援事業西脇研究大会が開かれたのですが、西脇市のPTCA研修会の中で過去最大の来場があり、500名を超える方に県市内外から来ていただきました。普通なら教員の方の研修に近いところが、PTAの方、地域の方々、県全体の教育委員会の方からも来ていただきまして、文科省の初等中等教育局の学校デジタル化プロジェクトチームリーダーの武藤さんのお話を、全国の先進事例を踏まえて聞いていただきました。

冒頭、西脇市の歴史が変わる日になるのではないかとということでお話させてもらいましたが、後で色々な方に聞きましたら、これまでの歴史、今までの教育のやり方、またICT、クラブ活動の地域移行も含めて、本当に大きい時代の流れの中にあるということと皆さんとお話できました。

本日の総合教育会議では、学校環境規模の適正化について意見交換を行います。昨年の11月24日に開催しました総合教育会議において、現状に対する意見交換を行いました。その後、教育委員会におかれましては、十分に協議をされ、推進計画案の決定について本日までの間、対応に当たっていただいています。本市にとって、大変重要な課題でありますので、有意義な意見交換を行い、本市のこれからの教育行政がより良いものになりますことを願い、本日限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては、西脇市総合教育会議運営要綱に基づきまして、片山市長をお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

◎市長

それでは、まず、本日の傍聴希望者数を事務局から報告願います。

○事務局

本日の傍聴希望者は、7名おられます。

◎市長

ただいま、事務局から報告がありましたとおり、本日の傍聴希望者数は、7名となっております。傍聴要綱で定める定員は、原則5名となっております。定員を上回っておりますが、傍聴要綱の但し書きに、「会場の都合により定員を変更することができる。」とされています。傍聴希望者7名が受け入れできる会場ですので、傍聴を認めることとし、このまま会議の方を進めていきたいと思えます。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。柴垣委員、和多委員、両氏にお願いします。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

引き続きお手元の次第に従いまして進めさせていただきます。次第2の協議・調整事項(1)西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画について、担当課から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。この協議・調整事項については、昨年11月24日に開催しました総合教育会議において、意見交換を行いました。その後、教育委員会におかれまして、十分に協議をされ、推進計画(案)の決定に向けて、対応にあたっていただきました。最終的には、先ほど開催された定例教育委員会で議案として提出され、採決され、今回、報告案件としてこの場にあがってきたと認識しています。それでは、まず最初に、教育長の方から先ほどの定例教育委員会の状況等について、何かございますでしょうか。

○教育長

先ほど終了した定例教育委員会の協議の内容について、ご報告させていただきます。

参考資料にある西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画の修正前後対照表をもとに、確認と協議をいただきました。その中で、12月に行われました教育委員会で、委員さんに協議いただいた方向が、修正案の中

でどういう表記になっているかという確認をいただきました。特にその内容について修正するようなご意見をいただくことはありませんでしたが、一点、第6章の、これから設置をされる統合懇談会（仮称）の部分についての質問と意見がでました。

まず、この統合懇談会の開催時期、回数についてのご質問、そしてこの統合懇談会に参加する委員の構成なり人数への質問でありました。それに対しまして、事務局から、この懇談会の設置については、4月以降を想定しており、夏ごろまでに方向性を見出すという想定において6、7回の回数を想定するという答えをいただいております。構成の所属域の区分けについても現時点のお話として、この会議のファシリテーターとして、学識経験者を1名、1つの中学校区において区長会から3名、保護者からは、中学校の保護者から3名、小学校の保護者から、2校ありますので3名ずつ、計6名。そして就学前の保護者代表を5名想定し、一方の地域において17名、両地域で34名、それに1名のファシリテーターを加えて35名の想定であるという説明を加えていただきました。委員さんからの追加のご意見として、この会議に若い民間の経営者の方の参画はいかがでしょうかというご意見をいただきました。この構成メンバーにつきましてはこれからの協議で決めていくといった回答がなされました。

さらに、12月の委員会でも出たこの懇談会についての要望ですが、若い人がお入りになるのでそういった方が発言しやすいよう、工夫や環境に配慮いただきたい旨を確認のため事務局からださせていただきました。また、事務局からの説明では、これは答申の部分かと思いますが、子どもを大切にし、子どもを中心とした協議をお互い行って欲しいといったご提案をさせていただきました。これは会議の中でも出た表現を使いますと、駆け引きのような協議ではなく、やはり子どもにとってよき環境を作るということを前提にしたことへの再確認であったと思います。委員の方からですが、現在の教育環境、社会環境の中、多様性や包括性が非常に大切な言葉として色んな場面で出てくることが多くなっているということで、そういったものを教育のソフト面、これから統合して作り上げる学校に根づいていくような工夫も、懇談会の中での協議の対象にしていただけたらというご意見だったかと思います。また、学校選びに終始するようなことではなく、どういう教育をしていくのか、子どもたちにとってこれから必要な教育というものをどう考えて、どう展開していくのかということも、若い方の関心事であるという背景から、そういったものの議論も統合懇談会の場でしっかりとやっていただくことが非

常に大事ではないかという意見がありました。不足部分に関しては委員さんから付け加えていただければと思います。よろしく願いいたします。

◎市長

教育長、ありがとうございます。今教育長から報告がありましたが、定例会での言い忘れとか、補足などございますか。

○委員

懇談会の中身、会議の方法ですが、意見を出しやすい会議の方法にさせていただきたいなと思っています。一方的に説明をして、聞いて、意見どうですかって全体にお話があったとしても、なかなか人前で話をするというのが難しいのではないかと思います。一つの提案ですが、例えば、グループワークみたいに何個かに分けて区長さん、若い方をまぜて意見を出し合う場を作っていたらなと思います。あんまり個人に負荷がかかるような会議とか、意見が出にくいような雰囲気にするのではなく、意見も付箋で出すなど、多くの意見が出しやすいような環境を作ってください、十分みんなで話を聞いていただけるような場にして欲しいなと思います。以上です。

◎市長

ありがとうございます。いわゆるワークショップということですね。貴重な意見ありがとうございます。他に追加などございますか。

○委員

先ほど教育長がおっしゃってくださったように、ぜひこの構成員に西脇市を牽引するトップリーダーの方、例えば、お商売されている方とか、若い外から来て、西脇市を見られて、すごく前向きにいろんな集客とか、情報を送ってくださっている方がいらっしゃるの、そういう方に入ってきて、斬新かつ前向きなご意見とかもいただくと、またみんなで話すよりは、新しい視点の意見がもらえるのではないかというのがあるので、ぜひそこは採用していただきたいと思っています。

◎市長

斬新なアイデアが得られるわけですね、斬新な意見だと思います。フリートークみたいになるんですけど、学識経験者っていう言葉があったんですけど、学識経験者と言ってもすごく範囲が広いですし、この方のコーディネーターの力はものすごく大事やと思います。今からお願いをするにあたって、教育長はどういうイメージの方にコーディネーターを要望すればいいと考えておられますか。

○教育長

こういう会議のコーディネーターは難しいという印象を与えるので、なり手がないと言ったらおかしいですけど、なかなか進んで引き受けていただくことは難しいかもしれません。個人的な意見になるかもしれませんが、できれば西脇市の教育、今の状況などについて、ある程度理解をしていただいている方にコーディネートしていただければ、地域の方々にとりましても、安心できる部分にならないかというような気がします。過去に統廃合や適正化推進などの経験があれば、それぞれの地域の思いを十分に理解いただけるでしょうし、その上で当日の会議での意見をうまくコントロールいただけるようであればよりいいのかなと思いました。

◎市長

なかなかハードルが高いですが、教育長の意見も踏まえて事務局の方で人選を進めていただき、適切な方をお願いをしていただきたいなと思います。

○委員

会議の回数を6、7回って聞いたんですけれども、企業の方の意見を聞く会、付箋を貼ってグループワークをする会、お互いのいいところを言い合う会など、いろんなテーマを決めて行うのがいいと思います。そこで決定なわけではなくあくまで懇談会なので、いろんな意見を聞く会をその都度開催していただければいいかなと思います。

◎市長

おっしゃるとおりだと思います。開催場所についてはどんな感じのイメージを持っていますか。

○委員

堅い感じではなく、ざっくばらんに話ができるような、気軽にみんな私服や普段着で来れるような会がいいのではないかと考えています。学校だけではなく、西脇市全体をデザインじゃないですけど、他市の人からよく、西脇市はセンスないねって言われるのがショックなので、そういうところを上手くプランニングされる方を中心に、ざっくばらんにやれるのがすごくいいのではないかなって考えています。

◎市長

おしゃれにプランニングを行いながらということですかね。その開催場所について、事務局ではどんな感じでイメージしていますか。要は話しやすく、気軽できるっていうイメージについて、どんなふうに考えていますか。

○事務局

まだ具体的にと言うと難しいんですけども、前の定例教育委員会の時もありましたがお互いを知るというキーワードがございましたので、やはり一つはお互いに、今でいう西脇東中学校と黒田庄中学校の施設の見学の場を設定することはイメージしています。話し合いにつきまして懇談会の場をどちらかの会場にするということになると、イメージ的に引っ張られてしまうところがありますので、できれば市役所の会議室などを考えています。

◎市長

お互いの施設を見ながら、メインはこの市役所の中の会議室みたいなところでということですね。場所について、何かアイデアがあればお願いします。

○委員

最近みらいえに行くことがあって、そこで趣味の会とかに参加するんですけど、みらいえはとてもおしゃれで素敵なので、ああいうところでお茶とか飲みながら話ができればいいのかなって思います。

◎市長

完全に思いつきですけど、今の皆さんのお話をお聞きして、例えば近隣で中学校を統合して使っているところ、今から統合するところ、もしくはモデルに考えたい中学校など、学校を見学しに行くのもいいと思います。あまり遠いところはいけないとは思いますが、参考になるようなところも一緒に見ていただければイメージが湧きやすいのかなと思います。これから事務局が懇談会の運営をしていくわけですけど、まずはこの総合教育会議で出た意見をベースに事務局が作っていくという形になると思いますので、みらいえのお茶を飲みながらも、確かにリラックスしてできる良い案やと思いますし、お互いに、本当に将来の子どもたちのことを想ってイメージをしていただくのが本当に大事なかなと思います。

それと皆さんに報告ですが、先日、大手企業の建築関係会社の社長さんが初めて西脇市にこられたのですが、なぜこられたかということ、昨年依頼があり、それこそみらいえが素晴らしい施設ということで、その会社さんが全国の市町にZOOMを使って発表するというイベントがありました。その4つの市町のうちの1つに西脇市が選ばれたので行かせてもらいました。そのお礼を兼ねてこられたのですが、その時にお話をお伺いしたのは、その会社はそもそも、学校の仮設校舎をリースするのがスタートの会社ですということで、社長さんに、プレハブねって言うと、プレハブというのは工事現場のイメージを皆さん持たれていますが、本来はプレファクトリーの意味で、工場ですべて材料を作って、現地で

組み立てる。だから、今の高級な住宅もプレハブなんですという説明があり、プレハブの品質はどんどん良くなっていますということでした。今の日本の子どもの数が減っている中でいい建物をたててしまうと、その建てた瞬間から、使わない教室が出てくる可能性があります。例えば20年とか30年、今のプレハブ校舎も十分に持つので、新校舎の一部はプレハブ校舎を使うといったことも考えられます。さらに、その使命が終わった後は、その材料を再利用できるというところで、これからは地球環境にやさしい学校施設または公共施設という部分で、もっとアピールしていきたいんですというようなことをおっしゃいましたので、先日こられた文科省の職員さんに話をしたら、文科省として確かにその視点はまだなかったのですが、文科省の一つのモデルとして考えていってもいいなといった個人的ではありますが、そういったコメントもありました。ですので、今は皆さんが思うプレハブとは違うのですとすごく強調されて、私も現地でいろいろと見ると確かにそのとおりだなと思っています。

そんな中、この計画を案の段階で見ましたが、計画の32ページの最後の方、一番下の3のところに、小中学校の廃校舎の利活用ということで、廃校になる学校施設は、地域の長い歴史の中で形成された伝統や生活文化の拠り所であるとともに、地域コミュニティ活動の場としての機能や防災拠点としての機能を有してきたけれども、廃校となる学校施設については、これが重要な社会資本であるから、教育委員会ではなく市長部局の方の仕事になるのですが、市長部局が小中学校統廃合施設の利活用に関する基本方針（仮称）を示し、当該施設に十分な情報提供を行うとともに、当該施設と十分に協議しながら、利活用・処分等の方向づけを行うように努めますと書いてあるんですね。廃校後というのは、厳密なこと言うと教育委員会の仕事ではない。要は廃校したら、それはもう教育委員会の手からはなれて、市の財産となるので、今度は市長部局がやっていかなあかんということで、いろんな説明会の時に、廃校になった後にこんな事例があるよということがなかなか示される機会がちょっと少なかったかなあというふうに思いました。廃校の活用事例について、文科省が作っている活用事例集があるということなので内容を説明していただけますか。（文部科学省「廃校活用事例集 みらいにつなごう みんなの廃校プロジェクト」参照）

○事務局

ここにありますが全国のいろんな例が載っている部分でして、北海道から南は九州沖縄までのところが入っております。多くは、企業がそ

の校舎を活用して、自分の企業でいろんな企画をやっています。それと、地域の方が集まっているいろんな体験活動や、宿泊、さらには給食を食べてみませんかというような、様々な計画をされているところがあります。

近畿地方では、文科省資料24番から30番まであるんですが、例えば養父市の事例では、リング（止め輪）なんかを作る工場を、学校を改造して設置をして運営をされています。校舎は製造施設のほかに職員室や事務室を従業員の食堂、休憩室として活用されているのが養父市の場合の例になります。それ以外に神戸市なんかでも活用されているところがありますし、ここには出ていませんが、丹波篠山市では、コミュニティ活動の拠点としてリノベーションを行い、おくも村というのがオープンされたりしておりますし、有名などころでは淡路ののじまスコラっていうところがありまして、いろんな物の販売であったり、実際に小さな動物園を作ったりして、様々なことで活用されているところが廃校の利用になっております。以上です。

◎市長

これは文科省が作られたデータなので、全国のモデルになるようなイメージです。中学校に限らず、これから小学校も地域の中で対象になってくるということなので、それぞれの状況や環境に合った形で、あるものは上手に再利用をして、サステイナブルにやっていけないといけないのかなという中で、こういうものを資料として出してもらっていますが、これはPDFファイルで誰でも見れるんですかね。

○事務局

はい。文部科学省のホームページを開いてもらって、廃校利活用っていうのを検索してもらえば、これが出てきます。

◎市長

私も今初めて見させていただいたんですけども、こういうことも一緒に考えていきながら、あるものを大事に使っていくことはすごく大事な視点だなと思います。これは懇談会の中でも、今経営者ということもおっしゃいましたけど、会社の経営なのか地域のコミュニティの場なのか、そういう部分の中で、資料提供なりしていただきたいなと思うんですがどうですかね。

○教育長

文部科学省のサイトの中で、廃校利活用のいろんな実践事例が掲載されています。これは国がそういった学校で廃校になるものを利用して、何かやりたい民間企業を募集し、マッチングの中で成立した例をあげているものであります。先ほど市長がお示しになった計画書の32ページで、

廃校の利活用に関しては基本方針を示し、当該地域に十分な情報提供を行うという部分と、今の部分なんかも合うかもしれません。そして、当該地域と十分に協議をしながら、利活用や、この施設のこの後の対応について方向づけを行うという方針でありますので、そういった段階を踏みながら、地域の声を聞きながらということになっていくかと思います。

○事務局

今のところで補足させていただきたいのが、教育財産ということで使っていたものが、用途が廃止になりますので、一般の行政財産ということで転用をしていくことになるのがこの流れの話になります。市としましては今年度5月に、この計画策定が見込まれておりましたので、通達の中で、こういった方針をつくるどころ、私どもで言いますと、財産管理しています管財課と土地利用推進室、そちらの方でこういった方針を作っていくことになりますので教育委員会で作るということではないということだけ補足させていただきます。

◎市長

そのあたりのことがこの32ページの一番下に書いてあることで、教育委員会では作られないんですけど、情報提供は教育委員会の方でしていただかないと、と思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。ただ、良いことばかりじゃないですよ。多可町さんで半年か1年ほど前に八千代小学校跡地で工場が進出したんだけど、においがあって、今も揉めてるっていう事例もありますので、反面教師にしながら、慎重に進めていかないといけない事例かなと思っています。

出せ出せで申し訳ないですが、この懇談会は曜日的にはどんな感じで開催を考えておられるのですか。

○事務局

子どもさんをお持ちのご家庭もありますので夜も出にくいところもありますし、休みの日も確かにいろいろご要望あるかと思いますが、できましたら土曜日の時間帯でいい時間帯を聞きながら進めていければなというふうに考えております。

◎市長

土曜日の昼間ですね。土曜日という部分でいうと、どう感じられますか。委員どうでしょうか。

○委員

土曜日は各個人によってかなり制約が違うと思うので、できるだけ多くの方からご意見を聞き、決めていかなければしょうがないと思います。ちなみに私は土日は全然ダメですけどね。私個人は、土日は全然動けな

い身なので、それは各個人によって大分違うと思います。

◎市長

参加される35名の方に聞いていただいて、できるだけ参加しやすい状況を作っていただければなあと思います。廃校の問題とか懇談会の問題とか話が行き来していますけど、思いついたとか、こんな発想はどうかなどございますか。

○教育長

先ほど教育委員会の報告としてお伝えしました、意見が出しやすい雰囲気とか工夫、配慮を願いたいという意見を12月もいただいた部分であります。そういう中で、もう一つは、この会議に加わっていただく人数がある程度限られた人数で行うこととの兼ね合いの中で、この会議をどのように公開していくか、もしここでご意見いただければと思います。今日のこの総合教育会議も傍聴の方がお入りになってオープンにして公開をしています。それから先ほど言った若い方がそういう環境、雰囲気の中で、お考えを自由に率直に言っていただくということとの関係性の中で、何かそういうことを注意していただけたらとかそんなご提案もありましたら一度聞きたいと思います。

◎市長

非常に大事なことだと思いますし、お聞きしながら付け加えるのは、まずは6、7回開催されるにあたって、1回目はどんな議題でどんな話し合いがあってなど、懇談会の内容を書面やネット上で情報を発信していくことも必要かなと思います。

新しいごみ処理場は、もうすでに多可町の糞屋ダム横でされていますが、毎月、今こんなことになっていますというお知らせを出しています。ああいう形で見るとすごくわかりやすいと皆さんおっしゃってくださるので、現在の進捗状況とか、話題を含めて、大事なことだと思うんですけど、教育長がおっしゃった、どういうふうに明るいワークショップをするかにあたって、フルオープンにするのか、公開せずに記録をとるけどみたいなものにするのか、どっちがええんでしょうね、本当に迷うことだと思うんですけど。

○委員

私はフルオープンがいいと思っていますし、この会議で何か決定というわけではなく、広くたくさんのご意見を吸い上げようという感じだと思うので、オープンがいいですし、意見が言えない人はさっきみたいに付箋を貼って、こうやりながらグループで最後にまとめた意見を言うとか、何かそういうみんなが声を上げやすいような感覚がいいと思うの

で、オープンであって、そういう形がいいかなと思っています。

◎市長

一人一人が発言をされて議事録に残る形じゃなくって、発言しにくい方は付箋に変えて、ワークショップ形式にして発表する、すごくいい視点のご意見と思います。

○委員

付箋で意見を出しあったほうがいいんじゃないかなと言ったのはそういう趣旨で、基本的には会議をオープンにさせていただいて、こういうふうにみんな話し合っているんだなということがわかるよう、またどんな話をしているかっていうのが、皆さんが聞けるようにした中で、やっぱりあの人ああいう意見言ったとか、責められることではないと思うんで、できるだけ率直な意見を集めるように、付箋でこういう考えはどうですかとか、そういったものも集めるようにしたらいいかなと思います。

◎市長

ありがとうございます。そういう面で言うとみらいえの会議室はガラス張りなんで、何をやっているかよくわかります。でも、あそこに35人入るかっていうと、もし入れたら、そういうガラス張りのところでっていうのは本当にいい雰囲気になって、いいかなと思いますね、コーヒーもありますしね。ほか、事務局の方からも、こういうことが課題やとか、ここで意見をだしてもらったらありがたいねんけどっていうようなことはございますか。

○事務局

確かに統合懇談会の運営っていうのが本当に難しいというふうに私も思っていますので、今いただいた意見は本当参考にさせていただきたいというのはあります。市長もおっしゃられましたが、当然重要になるファシリテーターの人がキーになるところもございますので、この辺りも中の方で調整といいますか、探していきたいと思っております。今いただいた意見の中では特になにもありません。いただいた意見が本当にありがたかったと思っています。

○教育長

今聞きながら思ったこと、一つは、情報の公開性をフルオープンでという意見が出ていまして、高めるためには、そういう取り組みも必要というような意見。それからもう一つは、先ほど委員からの、お互いに良いところを伝え合うことも必要ではないかというご意見。その二つを聞いたときに思い出したことがありました。先ほど市長もおっしゃって

ただいた土曜日のPTCA研究大会、武藤先生がおこしになった研究大会があったんですけど、実はあれは、第二部で発表講演をされたんですけど、その前に第一部というのがあったんです。その第一部はどういう内容を公開されたかというのと、その会の名の通り、今年度は小中1校ずつ合計2校、ある校区の小中学校がPTAの活動を発表されました。PTAという組織そのものが、マンネリ化したとか、同じことを繰り返しされているという印象を持たれている方も一部あるかもしれません。その学校の取り組みは、PTAの広報誌を刷新するというみんなの意見、地域の保護者の意見を聞くことで、これまでの文字がいっぱい並ぶ広報誌から写真を多く取り入れるものになりました。その写真には多くの子ども、ほとんど全員の子どもの写真がそこに写っています。その広報誌をもらった家庭は、卒業アルバムではないですけど、小1から小6まできちんと蓄積して、大事な子どもの成長の宝としてお持ちであるとのことでした。会議をオープンにすることはその地域間のイメージ、格差、距離を一気に縮めるということに繋がったのではないかとことを思い出しました。

以上のことから考えると、我々が今からやろうとしているこの適正化や、設置しようとしている統合懇談会というのは一体何を目標しているのかということをもう1回考えないといけないのではないかとことを今考えていました。これによって、例えばどういう地域性をこの西脇市に育てていく必要があるのか、この懇談会が2つの該当地域以外の方々にどのように伝わって、どういうことを啓発するチャンスになるのか、そこで育つ子どもたちにはどういう効果があるのか。このようなことを考えますと、どの場所で、どの建物でとかいうことではなくて、私たち自身がそこに詰め込むものを創造的に、斬新で、新しいものとして、大人も子供も地域の方も、新しいスタイルを具体的に発信する場を作ろうとする協議であり、そういうことを進めようとする推進計画であるのなら、とらえ方や受けとめ方も変わってくるのではないかとことを意見として、述べさせてもいました。

◎市長

ありがとうございます。ほんとにそうですよね。他なにかございますか。一昨日の土曜日のPTCAの発表も、2校とも素晴らしかったと思いますし、また後の武藤さんの話を聞かれた方は、これからの時代が今までの時代と全く違う方向にあって、求められる教育がこう変わっていても全然違うということを感じていただけたかと思います。講演会后、たまたま同年代の元教師の人と話したんですけど、早くやめてよか

たって言っていました。というのは、本音だと思うんです。私も見ていて思うのは、ICTの教育を、50代の後半から、1からやれって言われても、なかなか難しいと思います。たまたま西脇市の場合は、若い先生の層が厚いので、ものすごく伸びしろがあるのと、桜丘小学校と黒田庄中学校で模範授業をそれぞれ見せていただいたんですけど、目からうろこで、これがこれからの教育の方向っていうのが、目の前で見せられると、今までの黒板に板書してた時代がもうすでに何やっていうのが、すごくわかりました。また、武藤さんがお話しされていたのが、2月にもう一度、春日井市の水谷先生と新潟の片山先生がそれぞれ、黒中と楠丘小にこられて、模範授業されるんですが、これまでの半年間の成果と武藤さんっていう、文科省でGIGAスクールの責任者がこんな小さな町に来てしゃべってもらっているっていうことで、全国から文科省が集めてきた先進的な先生が、自分のお金で有給とって沖縄とか、遠いところからわざわざ西脇市にきて、今後のICT教育について、文科省から来ている先生方と一緒にサポートしてあげようということがあり、文科省からみると多分これだけ注目を集めている市はないんじゃないかというぐらい、今すごくいい環境にいると思います。ただ、これあんまり言うと怒られますけど、すべての先生が同じ気持ちで同じレベルでおられるわけではないので、できる限り、その高いレベルでキープしていただいている先生に早く合わしていただけるように、努力をしていただければなど。これが次の世代に必要な、今教育長がおっしゃった1つの課題になってくるかと思えます。

2つ目ですが、先週金曜日に県庁で県知事と41市町の首長が集まった定例会議がありまして、芦屋市の27歳の市長さんから、クラブ活動の地域移行が全然進んでないと意見がありました。芦屋は小さい町なので、神戸市のクラブへいく子もあれば尼崎にいく子もいるので、市内だけで完結せず、何とかしてもらわなあかんというお話がありました。しかしご存知のように、西脇南中学校の生徒が多可町の織物工場の跡でやっている卓球クラブで頑張っているように、阪神間の話じゃなく、どの市町村でも同じ話になっています。こういうところの100年に1回教育が変わる時代が、ICTもあるけど、クラブ活動地域もあるっていう、ここをぜひ、今度来られる委員の方々にはわかりやすく説明してほしいと思います。最初文科省の資料を見ても、これ何のこっちゃわからへん資料なんですね、それを何回も聞いて、理解するまでなかなか時間がかかるので、わかりやすく説明をしてもらうこともぜひやっていただきながら、ご存知のように名門である西脇南中学校の全国大会に行った野球部が今

2人しかいないとかですね、そういう時代の流れが、私たちの想像以上に来ているというところで、クラブ活動っていうのも、子どもたちにとっては大事なことだと思うのです。野球と言うと、委員のお子さん方はどんな感じのクラブ活動をなさっていますか。3人息子さんがおられて、みんな硬式野球をされていますけど、学校でクラブ活動をされていますか。

○委員

中学校の部活は、長男は野球部に入っていましたけど、次男は一切入ってなくて、クラブチームで硬式野球を行っておいりました。3男も小学校で硬式のチームにはいっておりますので、中学校に入ったら部活はしないと思います。そういう子が増えてきて、やっぱりクラブチームも結構増えてきています。野球だけではなくサッカーとかテニスも増えてきていますね。

◎市長

お聞きしましたら、大谷選手は軟式野球をしなかったのが伸びた理由の一つだとか、ほんまかなと思うんですけど、まさにそうなんです、学校のクラブ活動をしらないというのも1つ、時代の流れですね。

○委員

西脇中学校はクラブチームに入っているけど部活に入れるんですけど、南中学校は確かクラブチームに入っていたら学校の部活に入れない、そんなことをお聞きしたのですが。

○事務局

西脇南中学校の場合は、硬式野球に入っていたら、軟式野球は同じ野球ということで入れないんですけども、野球に関係ないクラブであれば入れるというルールがあります。二重登録はできません。

○委員

多分みんな勘違いしているのか、陸上も入れないからみんな部活入らないって西脇南中学校の子は言っていたのを記憶しているんですけど、西脇中学校では野球は入りませんが、わりと陸上部に入っている子がいるのでそれはそれでありがたいなあとは思いますが。

◎市長

先日も黒田庄地区の若いお父さんが硬式の野球クラブを作ると言っておられ、いろんなリーグがあって、今の北播リトルシニアさんとはまた別のリーグなんだけども、でも、一緒に協力してやっていきたいということもおっしゃっていただいたので、そういう部分も市としてサポートもしていかないといけないなと思ったりもしています。

ちょっと学校適正化と全然話が変わってきていますが、最後に、何か、付け加えとかございますか。では、最後に本協議・調整事項(1)の西脇市立学校学習規模適正化推進計画について、最終決定された内容を認識して、共有されましたということで、教育委員会の皆さんにおかれましては長期にわたりますけども、本推進計画の具体化に向けて、今後の対応について、あたっていただきたいと思っておりますし、市としても、将来の学校配置を見据えて、関連する事業に積極的に取り組んで考えていきたいと思っております。それでは西脇市立学校学習規模適正化推進計画については終わります。

◎市長

次に次第の3 その他ということでなにかご発言のある方はおられますでしょうか。委員お願いします。

○委員

前の定例教育委員会でもお話したんですけども、文化功労者になられた横尾忠則さんの美術館に先日行ってきまして、原画油絵っていうのを見てきて、ぜひ岡之山美術館でもそういうものを展示していただきたい。子どもたちにも横尾さんっていう画家が、西脇市出身で、Y字路、N市というので書かれているので、もうぜひとも子どもさんたちにもたくさん見ていただいて、こういう方が西脇市におられたということで、すごく誇りを持っていただきたいと思いました。ぜひ原画展、開催を待っております。よろしくお願いします。

○事務局

ご意見ありがとうございます。岡之山美術館と協議して作品が展示できるかどうか、その辺りも検討をしていきたいと思っております。

◎市長

貴重な意見ありがとうございます。他にないようでしたら、事務局の方から連絡事項をお願いします。

○事務局

では、今回の総合教育会議の開催時期についてですが、現時点では未定です。また今後、協議事項等がありましたら事務局の方から調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

◎片山象三市長

それでは、これをもちまして、令和5年度第3回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————